

平経第 975 号
平成20年10月20日

国土交通省道路局長 殿

奈良県平群町長 岩崎万



今後の道路行政について意見・提案について（報告）

平成20年9月19日付、国道企第37号において依頼のあったこのことについて別紙のとおり報告します。

今後の道路行政についての意見・提案

①道路行政全般について改善すべき点、要望や提案など

様式 ①

奈良県平群町

国に求める要望事項

- ①入札契約の適正化など事業の透明性を確保し、コストを減らす努力をする。
- ②事業の必要性を再検証し、整備効果についても国民の理解が得られるよう情報公開する。
- ③既存橋梁の老朽化が目立っている状況であり、今後改修の時期にさしかかってきている。「長寿命化修繕計画」が策定されたが、これでも各自治体は大きな財政負担を強いられ、財政の圧迫の要因となる。今後、さらなる財政的支援をお願いしたい。
- ④国道 25 号線（特に郡山～王寺区間）の渋滞緩和対策。斑鳩パークウェイの早期完成。
- ⑤京奈和自動車道（五条道路、御所区間）の早期完成。

現状

本町の道路整備の現状は、町内を南北に縦断する国道１６８号線とそのバイパスに依存しているといっても過言でない状況であり、道路交通の現状では、この主要道路についても、県道・椿井王寺線と接続する椿井交差点が未改良であり、渋滞が慢性化している現状である。

また、東西方向の主要幹線道路が町内になく、町外の国道等に依存せざるを得ないため、町内外の交通は大きな迂回を余儀なくし、住民に大きな不便を感じさせている。

課題

このような現状を打開していくため、本町の道路整備計画において、とりわけ次の点を優先度の高い重点的な主要課題とし、中期的な整備を計画している。

- ①東西へのアクセス強化のため、郡山方面と直接連絡する（仮称）東西線の整備促進
- ②渋滞の慢性化を解消するため、国道１６８号線椿井交差点の改良促進
- ③中心市街地へのアクセス強化を図るため、都市計画道路・平群駅前線の整備促進
- ④周辺の里山・田園環境に配慮した、県道平群・信貴山線の改良促進
- ⑤県道椿井・王寺線の改良促進

～ だれもが快適で安心できる移動空間を整える ～

【基本方針】

誰もが移動しやすい交通基盤の整備をめざし、安全で快適な道路交通ネットワークの形成とともに、これに基づき幹線道路等の計画的整備や潤いのある愛着のもてる道づくりを進めていきます。

また、丘陵地の郊外型住宅団地等における居住者の高齢化も踏まえ、移動しやすい多様性のある交通環境の確保を図るため、住民の利用ニーズ*を踏まえながら、鉄道・駅・バスが連携した利用しやすい総合的な交通ネットワークの形成と、公共交通の利用を促進していきます。

①安全で快適な幹線道路のネットワーク形成

- ・都市交通の円滑な処理や災害に強い道路網を形成するため、環状道路の形成など、代替性や階層性が確保された道路交通ネットワークを形成します。

②幹線道路等の計画的な整備

- ・中心市街地へのアクセス*強化を図るため、都市計画道路*平群駅前線の整備を推進します。
- ・東西方向（大和郡山市方面とのアクセス）における交通の利便性を確保し、産業・観光振興、定住環境の充実等に資するため、（仮）東西線の整備を県に要請します。
- ・災害に強い代替性のある道路交通体系を形成するため、国道 168 号を補完する都市計画道路平群西線の整備を推進します。
- ・日常的な交通渋滞の緩和と歩行者の安全性確保を図るため、県道椿井王寺線の改良事業を促進します。
- ・交通渋滞を緩和するため、国道 168 号線について、県道椿井王寺線が接続する椿井交差点付近の改良事業を促進します。
- ・地域間における幹線道路の機能を強化するため、周辺の里山や良好な田園環境に配慮しつつ、県道平群信貴山線の改良を促進します。
- ・町内における安全で快適な道路空間を確保するため、鳴川路線、川原路線、四辻路線、櫟原路線等の整備を促進します。
- ・広域的な交通条件の向上を図るため、国道 168 号（平群バイパス）の生駒市側の延伸とともに、それに伴う既存区間の交通渋滞等の対策について、関係機関に早期実現を要望していきます。
- ・広域的な観光振興と西部地域における幹線道路ネットワークの強化を図るため、西和広域農道の生駒市側への延伸について検討します。

③潤いのある愛着のもてる道づくり

- ・高齢者、障害者などあらゆる住民が安全で安心して通行できる道路環境を確保するため、歩行や自転車等が通行できる歩道の確保に努めます。
- ・住民の利用頻度の高い公共施設や鉄道駅周辺においては、歩道幅員の確保、歩道段差や傾斜の解消、誘導ブロック等道路のバリアフリー※化を推進します。
- ・快適で、愛着のもてる道づくりを推進するため、「通り」「筋」の愛称設定を図るとともに、町の木である「かし」をはじめとする樹木や花を多用した道路緑化や秩序ある屋外広告物の設置誘導など良好な道路景観を形成します。
- ・主要な生活道路の計画的な整備を推進するため、地域特性を踏まえ町道整備計画の策定を図るとともに、道路整備の緊急度、優先度に基づき順次改良を進めます。

④道路の適正管理

- ・道路環境の適正な維持・管理を図るため、安全パトロールや道路パトロール等により危険、破損箇所の早期発見と事故の未然防止に努めます。

⑤駅前広場等の整備

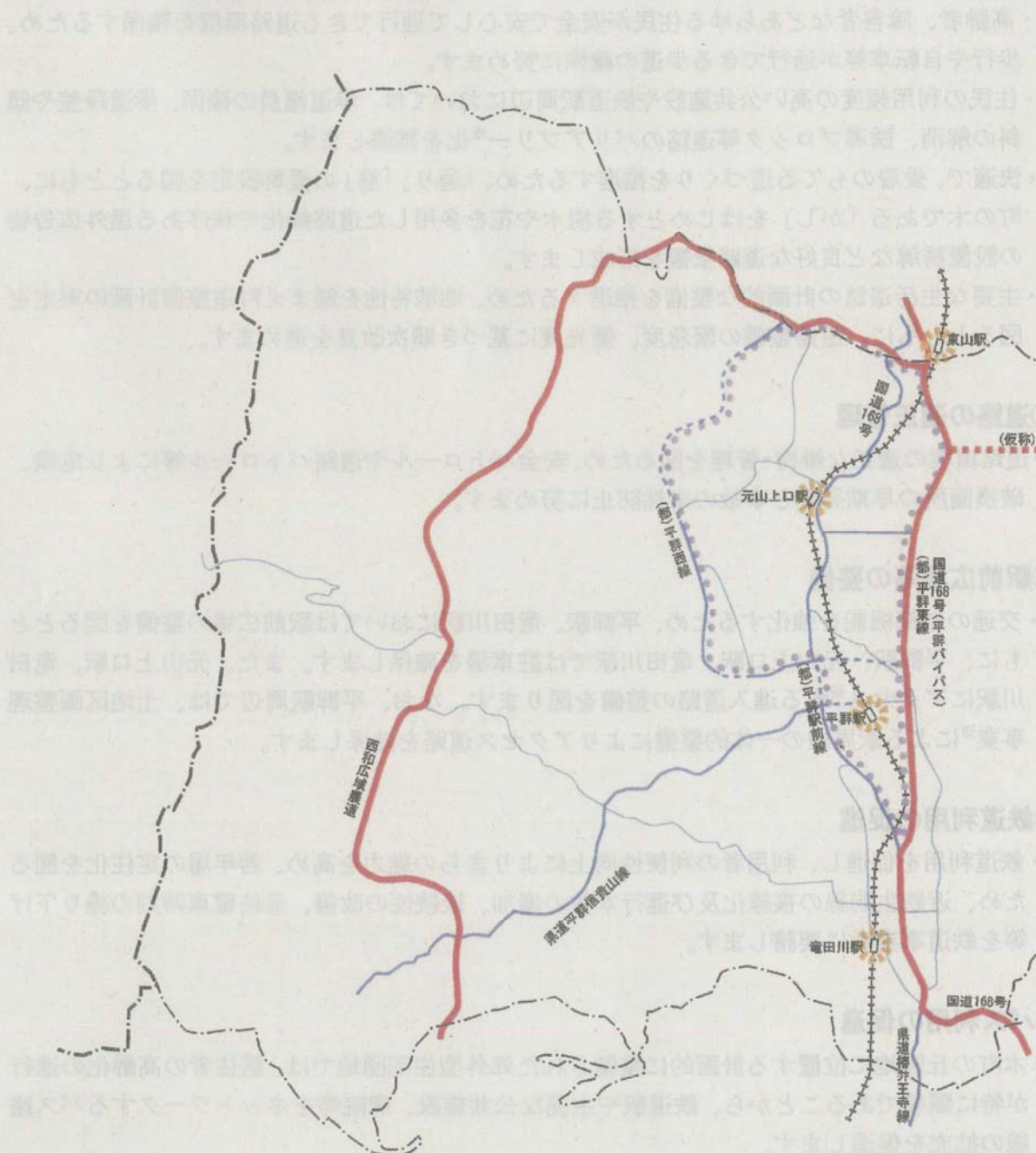
- ・交通の結節機能を強化するため、平群駅、竜田川駅においては駅前広場の整備を図るとともに、平群駅、元山上口駅、竜田川駅では駐車場を確保します。また、元山上口駅、竜田川駅にアクセス※する進入道路の整備を図ります。なお、平群駅周辺では、土地区画整理事業※による駅周辺の一体的整備によりアクセス道路を確保します。

⑥鉄道利用の促進

- ・鉄道利用を促進し、利用者の利便性向上によりまちの魅力を高め、若年層の定住化を図るため、近鉄生駒線の複線化及び運行本数の増加、接続性の改善、最終電車時刻の繰り下げ等を鉄道事業者に要請します。

⑦バス利用の促進

- ・本町の丘陵地に位置する計画的に整備された郊外型住宅団地では、居住者の高齢化の進行が特に顕著であることから、鉄道駅や主要な公共施設、病院等をネットワークするバス路線の拡充を促進します。
- ・高齢者や障害者等が安全で容易に乗り降りできる低床バス※等の導入を促進します。
- ・バス交通の定時性を確保するため、鉄道発着時間との連携を促進するとともに、運行ルートとなる道路の改良に努めます。



凡 例	
	広域幹線道路（整備済・整備中）
	広域幹線道路（未整備）
	主要幹線道路（整備済・整備中）
	主要幹線道路（未整備）
	幹線道路（整備済・整備中）
	幹線道路（未整備）
	環状道路
	交通結節機能強化
	近鉄生駒線

今後の道路行政についての意見・提案

様式 ③

②－２地域の目指すべき将来像

奈良県平群町

別紙のとおり（都市計画マスタープラン・将来都市構造添付）

(5) 将来都市構造

将来都市構造は、まちづくりの理念に基づく将来の都市像（3つのめざすまちの姿）の基本的な骨格を示すものです。将来都市構造は、まちの拠点づくり、ネットワーク（軸）から構成されます。

1) 将来都市構造の基本的考え方

本町では、今後の人口減少社会や高齢化社会等を背景に、環境負荷の少ない持続可能（サステイナブル）な都市の形成をめざし、各都市拠点に都市機能^{*}を集積するとともに、公共交通機能等を充実しつつコンパクトな市街地の形成を図ります。

- 中心市街地の活性化を図る観点と産業の活性化を図る観点から、中心市街地と幹線道路沿道の都市機能^{*}の分担と連携が図られた都市構造を構築します。
- 平群駅周辺の中心市街地においては、市街地開発事業^{*}により商業地、住宅地等と公共施設を一体的に整備し、生活・文化・居住機能が充実した安全でにぎわいのある拠点を形成します。
- 国道 168 号平群バイパス沿道ではそのポテンシャル^{*}を活かし、中心商業地との機能分担と連携が図られた広域利用に資する産業拠点を形成します。

【めざすまちの姿】

『水と緑と歴史豊かなまち』

豊かな地域資源を住民とともに守り育ていくとともに、まちづくりに積極的に活用していくなど水と緑と歴史豊かなまちをめざす

『安全で魅力にあふれる居住性の高いまち』

防災・防犯対策、住宅地環境の向上、道路・交通体系の整備、生活環境施設の充実等居住性の高いまちをめざす

『自立性のある活力に満ちたまち』

景観の創造、中心商業地の活性化等、個性と自立性のある活力に満ちたまちをめざす

【持続可能な都市構造の形成】

<拠点・ゾーン>

- 町の玄関口にふさわしい生活・文化・居住機能が充実したにぎわいのある「主要生活拠点」
- 日常生活の利便性の向上と安全で親しみやすい生活空間の創出を図る「生活拠点」
- 住民の多様なニーズへの対応や地域産業の活性化を実現する「生活関連型産業拠点」「知的集約型産業拠点」
- 水と緑と歴史豊かな交流空間の形成を図る「歴史拠点」「緑の拠点」
- 観光交流機能の向上や農業生産物の消費を促進する「観光交流ゾーン」
- 豊かな自然環境の保全・活用を図る「自然環境保全ゾーン」

<軸>

- 地域のシンボル空間となる竜田川による「アメニティシンボル軸」
- 特色ある地域の風土にふれあう歩行者空間軸である「水と花と緑のネットワーク軸」
- 円滑な交通処理や人と環境の視点到配慮した「主要骨格軸」
- 代替性と回遊性をもつ体系的な道路交通網を実現する「環状道路軸」

2) 拠点づくりの目標

①主要生活拠点

平群駅周辺は、主要生活拠点として位置づけ、町の玄関口にふさわしい景観形成を図るとともに、生活・文化・居住機能や平群駅を利用する駅勢圏を対象に最寄品を中心とした商業機能が充実した、にぎわいのある拠点空間の創出を図ります。

②生活拠点

竜田川駅周辺、元山上口駅周辺、東山駅周辺は、生活拠点として位置づけ、日常生活の利便性の向上に資する都市機能*や快適で親しみやすい都市空間の創出を図ります。特に、東山駅周辺については、その立地特性を活かし、商業・業務施設等の立地誘導を促進します。

③生活関連型産業拠点

平群駅と竜田川駅に至る国道168号平群バイパス沿道地区を広域生活関連型産業拠点として位置づけ、周辺市町からの集客も見込んだ広域的な生活関連型サービス拠点としての立地誘導を図ります。

④知的集約型産業拠点

町北部の国道168号平群バイパス沿線の上庄地区においては、知的集約型産業拠点として位置づけ、無公害型の産業を誘致し、地域産業の基盤強化と雇用の場の確保を図ります。

⑤歴史拠点

信貴山朝護孫子寺、鳴川千光寺、長屋王墓周辺を歴史拠点として位置づけ、歴史文化とのふれあい機能等の充実に努めるため、文化財等の観光資源の保護とその利活用に向けて周辺整備を図ります。

⑥緑の拠点

平群中央公園及び平群北公園を緑の拠点として位置づけ、住民の多様なレクリエーション活動や地域コミュニティ*等を促進するため、施設の充実に努めます。

⑦観光交流ゾーン

西和広域農道沿線の久安寺周辺地区及び櫛原周辺地区は、観光交流ゾーンとして、観光交流機能を有する拠点形成を進め、地域農業を活用した交流機能、里山や農地を活用した参加・体験学習等が図られる親緑性のある自然型レクリエーション機能の導入等を推進します。

⑧自然環境保全ゾーン

生駒山地、矢田丘陵の区域は自然環境保全ゾーンとして位置づけ、豊かな自然環境の保全・活用を図ります。

3) 軸づくりの目標

①アメニティシンボル軸

自然や歴史的に価値が高い竜田川をアメニティ※シンボル軸として位置づけ、良好な河川環境の保全とともに、地域のシンボル空間としての活用を図ります。

②水と花と緑のネットワーク軸

長屋王墓や信貴山朝護孫子寺、鳴川千光寺に代表される歴史文化や、生花やブドウ等の都市近郊農業にふれあえる緑の軸を水と花と緑のネットワーク軸として位置づけ、特色ある地域の風土にふれあう快適な歩行者空間軸の形成を図ります。

③主要骨格軸

国道 168 号平群バイパスや西和広域農道等を主要骨格軸として位置づけ、円滑な交通処理を行うとともに、人や環境の視点に配慮した整備を図ります。

④環状道路軸

地区内幹線道路と国道 168 号平群バイパスのネットワークにより、代替性と回遊性をもつ環状道路軸を形成し、安全で快適な道路交通網の体系化を図ります。

■将来都市構造図



凡 例		
拠 点 ゾ ン		主要生活拠点
		生活拠点
		生活関連型産業拠点
		知的集約型産業拠点
		歴史拠点
		緑の拠点
軸		観光・交流ゾーン
		自然環境保全ゾーン
		アメニティシンボル軸
		水と花と緑のネットワーク軸
		主要骨格軸
		環状道路軸